2020.12.10

養老渓谷 3 部作 第 3 部弘文洞跡・筒森もみじ谷ハイキング記

惠谷　浩

新型コロナウイルス感染第 3 波が全国的に拡大する中、先月に続いて養老渓谷のハイキングに出かけた。今回は晩秋・初冬の弘文洞跡・筒森もみじ谷コースとした。弘文洞跡はこれまでに何度も訪れた記憶があるが、その回数は保存している手帳に記録していない場合や写真が残っていないために分からない。また、筒森もみじ谷は初めてのハイキングである。

2020 年 12 月 6 日（日）7:30 自宅発。北習志野駅 7:43 発新京成線、JR 総武線津田沼駅 8:03 発、千葉駅乗換え、8:41 五井駅着。8:49 発小湊鉄道で 9:53 養老渓谷駅着。2 両編成の小湊鉄道・ディーゼルカーは満席で立っている者も数名。また、高齢者が多くて、団体・グループの者もいるようで全員マスク姿だが、大声で話合う人達があちらこちら。日曜日であるとともに、紅葉の最盛期だからだろうが、このコロナウイルス禍に大丈夫だろうか。養老渓谷駅の横には出店や屋台も並び下車客で賑わっていた。

7:21 自宅過ぎの街路樹イチョウ

10:01 紅葉終る養老渓谷駅とその横

多くの観光バスが行き交う道路を歩く途中、山神社に参拝し、養老渓谷温泉郷の養老川に架かる 2 連の太鼓橋である観音橋に 10:30 着。観音橋からの光景は 2008 年 12 月 1 日に訪れたときの写真と同様に紅葉が素晴らしい。前々日ネットで調べたところ、養老渓谷のもみじは落葉とのこと。養老渓谷の紅葉は例年遅いはずなのに今年は早かったのかと心配したが、前回 11 月のハイキングと違って紅葉を楽しめると一安心。

養老渓谷地図/市原市観光協会・大多喜町観光協会・養老渓谷観光協会・養老渓谷旅館組合リーフレット、平成 16 年発行

10:10 山神社

10:17 道路脇にある新旧の馬頭観音

10:23 道路脇にある地蔵

10:33 観音橋からの光景

2008 年 12 月 1 日の観音橋からの光景

10:40 観音橋の直ぐ横から養老川に下り、川沿いの道を歩き弘文洞跡を目指した。中瀬キャンプ場近くに葛藤亭がある。今はやっていないが、夏季に何度も一人で来て肉・野菜バーベキューに心地よく冷えたビールでのどを潤したことを思い出した。

10:42 振返り観音橋を望む

10:46 飛石と懸崖の断層

10:48 葛藤亭

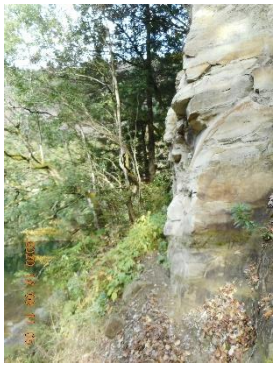
10:49 紅葉・黄葉の川沿の道を歩く

しばらく進むと、黄・黒色の綱が張られ、「弘文洞跡へは崩落のため通行禁止」の標識がある。川の中のコンクリート製飛石の途中が飛石がなくて流木が滞留したところがあり、川岸に上がる辺りも丸太などが見える。ところが足元を見ると、靴の跡がはっきりとあり、通過した人もいるよう。その人はここを通過した後、引き返したかも知れないが、何んとかなるだろうと禁止の綱の横から川に下った。滞留した流木の上は靴を濡らしながら何んとか通った。岸辺の丸太のところに階段があるが、その先に道は見えない。丸太と階段の横から上がると川沿いに道があるよう。そこで滑りやすそうだが飛石から岸に足をかけ上がろうとするとズルズルと滑る。両手のステッキで支えようにも何もなくて止められない。そのまま川の中に転落。水深は 40 cm 位。背中が下になりリュックサックがクッションの役目をして背中は何んともない。しかし、右足のすねがやけに痛い。何かに打ち付けたのだろう。怪我がなくて不幸中の幸いと水と砂を払い落として道を進んだ。なお、帰宅して入浴のとき気付いたが、すねにひどく擦り傷を負っていた。痛かったはず。道が川沿い

から少し上がったところで崩落しており、道の極一部が残り片足がようやくかかるだけで、左は絶壁、右は断崖となりっている。右手に 2 本のステッキを持ち、左手で壁を持とうとするがとっつきがなくて持てず。身体を壁側にあずける。左右の足を交互に出来ず、ゆっくりと左足を右足の後に付け、右足を進め、左足を右足の後に付け、冷や汗をかきながら渡った。さらに数メートル進むと同様な崩落があり、南無さん、命辛辛で通過。その後歩き続け、綱と通行禁止の標識があり、11:07 遂に弘文洞跡に到達。命拾いの後に、幻想的で静寂の光景に感無量。市原市観光協会など 4 協会・組合のリーフレットによると、弘文洞跡は約 140 年前に耕地開拓のために蕪来（かぶらい）川を川廻し（蛇行する川は自然に三日月湖をつくるが、それを人為的に行い湖の部分を耕地にする方法）してつくられた隊道跡。隊道は昭和 54 年 5 月に崩壊したという。以前何度も見た弘文洞跡は隊道の形をもっと残していたと思うが、次第に崩落が進んだようである。

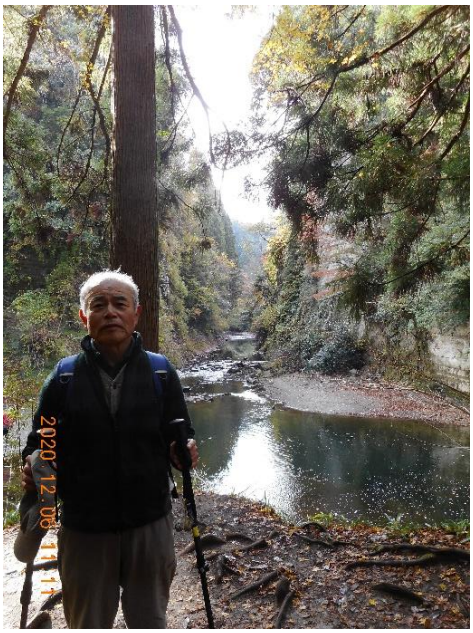
丁度、反対側の道から 3 名の若者が来たので弘文洞跡を背にして記念写真を撮ってもらった。若者がここから通行禁止となっているが、どのようだったのですかと聞く。川の飛石と道の崩落の状況を伝え、君たちは若いから通れるかも知れないが、私は歳で足腰が弱くなっており、あわやあの世行きだった。非常に危険だから通らない方が良いと言うと、引き返した。

10:56 飛石の流木滞留(手前)と川岸近くの状況

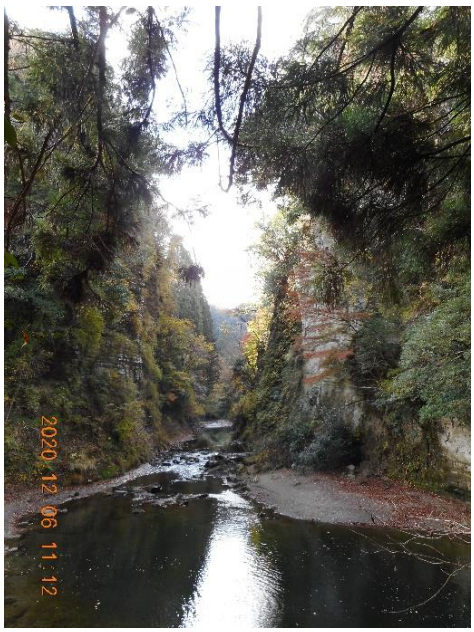


11:05 崩落道を通過後少し進み振返る

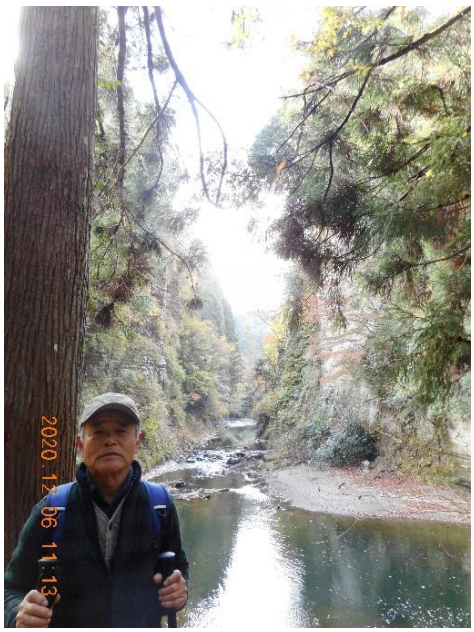
11:05 養老川に層状の岩がある



11:11 弘文洞跡を背にした記念写真



11:12 幻想的で神秘な弘文洞跡



11:13 静寂の弘文洞跡の筆者

11:18 静寂の弘文洞跡に名残を惜しみ、養老川沿いの中瀬遊歩道を進む。多くの人達に出会いながら、直

ぐ近くに旅館・川の家がある共栄橋に着。その横には「崩落のため通り抜け出来ません　※弘文洞跡から先通行止め。」の標識。

11:23 多くの人が渡っている飛石

11:23 紅葉を写す養老川の流れ

11:31 共栄橋と中瀬遊歩道(右)

11:33 恐怖の標識

11:34 いよいよここから、筆者は養老渓谷で初めての体験となる筒森もみじ谷へのコースに入いる。幅広いアスファルトの道路を通り奥養老バンガロー村の入口。そこは綱が張られ入れなくなっていた。少し道幅が狭くなり、トンネルが次々と現われる。リーフレットに載せてある写真の梅ヶ瀬渓谷には蕪来川を人が歩く姿が写っており、「千葉県一の紅葉の名所。川幅 4.5m、長さ約 80m にわたり高さ 30～50m の梅ヶ瀬層と呼ばれる浸食崖がみられる。」と説明書きがある。このため、筆者は先月訪れた日高邸跡への梅ヶ瀬渓谷と同じように川沿いの道を時々川を渡りながら進むものだと考え、長時間を見込んで計画を立てていた。ところが、こちらの梅ヶ瀬渓谷の道は蕪来川の流れよりも随分と高い所にあり、車や多くの集団バイクの列が行き交っている。これなら楽勝。12:42 道路脇に大きな平らな石が置いてあったので、腰かけて持参のパン・チーズ・みかんなどで昼食。国道 465 号線に出た後、13:39 いよいよ 465 号線を離れ筒森もみじ谷へ約 1km の標識。リーフレットには筒森もみじ谷の写真に「房総地方の紅葉は関東では最も遅くまで楽しめる。この付近は例年 12 月初旬まで盛期がつづく。」と説明書きされている。思いがけない楽勝の道を歩き、紅葉への期待はふくらむばかり。14:00 紅葉盛期の筒森もみじ谷に着。駐車場には多くの車があり、地元の人達だろう屋台を広げ、焼魚・串や、野菜・柿などを売っている。看板には「朝どり野菜 日本一 いや世界一」となっているのには思わず失笑。紅葉を眺めながら、さらに少し先まで歩くことにした。バイクで来た人達 5～6 名が休息しているのを見た。

11:34 筒森 4.2km の表示板

11:36 懸崖の断層

11:49 つかごしトンネル

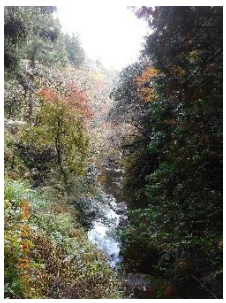
12:02 自然に出来たのだろう大きな穴

12:10 トンネルの向こうにもトンネル

12:14 道路から蕪来川がわずかに見える

12:15 トンエル

12:17 左のトンネルを抜けるとそこは



12:18 蕪来川

12:19 幅広い道と紅葉・黄葉

12:23 牛尻戸上トンネル

12:31 休耕田と紅葉・黄葉

12:37 紅葉・黄葉

12:38 樹林帯の車も通る道

12:42 昼食の石とステッキ・リュック

13:02 紅葉と黄葉

13:15 初冬のススキがある風景

13:16 ワラぶき屋根にトタン板

13:36 筒森もみじ谷の観光バス

13:39 筒森もみじ谷 歩こう 約1km

13:49 紅葉に囲まれた断崖

13:54 休耕畑と紅葉

13:59 筒森川に架かる小倉野第一橋

14:00 筒森もみじ谷駐車場

14:03 朝どり野菜の看板

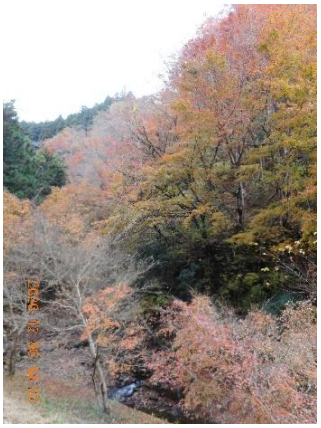
14:04 筒森もみじ谷の光景

14:10 筒森川が見える光景

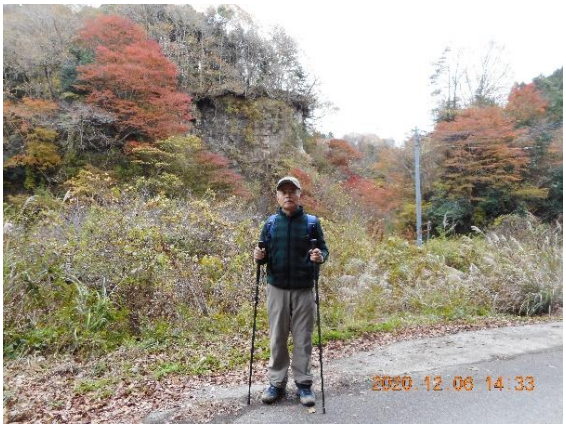
14:13 筒森川とバイクツーリング者

14:15 紅葉・黄葉の光景

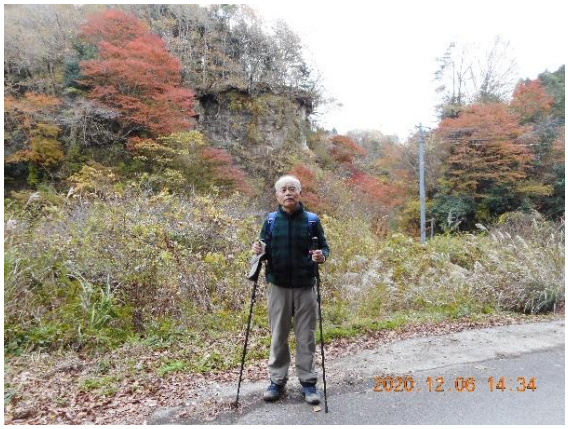
14:15 帰路に着く。生まれて初めて訪れた紅葉盛期の筒森もみじ谷だったのに筆者を入れた記念写真を撮ることを忘れていた。筒森もみじ谷を少し過ぎているが丁度、紅葉に囲まれた断崖の光景の所で人と出会ったので、記念写真を撮ってもらった。また途中、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を発生する野焼きの煙が立ち上がるのを見かけた。16:18 筒森もみじ谷コースへの入口となる旅館・川の家の横の共栄橋に着。



14:22 筒森もみじ谷の紅葉



14:33 断崖と紅葉・黄葉を背にした記念写真



14:34 同/帽子を取って

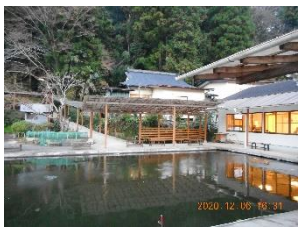
15:59 夕暮の紅葉・黄葉

16:07 塚城隊道

16:09 野焼き(中央やや右)

16:18 橋と灯りが付いた川の家

何度も通ったトンネルなのに気付かず、第 1 部粟又の滝ハイキングで初めて見た二階建てトンネルを通った後、マスの釣堀場に。ここでマス釣りをしたことはないが、大広間でマス料理を昼食として美味しく頂いたことを記憶している。ただ、料金が随分高かったので一度か二度限りである。観音橋は 1 灯のみだがライトアップされ、また美しい。17:18 イルミネーションで飾られた養老渓谷駅に着。17:56 発の小湊鉄道・2 両編成ディーゼルカーに乗車。日曜日でも時刻が遅いためだろう乗客は数名。往路で満員となった人達はとっくに帰ったのだろう。20:13 北習志野駅着。20:30 自宅。



16:25 二階建てトンネル　16:31 マス釣堀場　16:42 ライトアップの観音橋　17:07 沈む夕陽　17:18 養老渓谷駅

今回の約 18 km の弘文洞跡・筒森もみじ谷ハイキングは今を盛りと競う紅葉・黄葉を堪能でき、今後の生活への活力となるだろう。ただ、弘文洞跡への崩落の道は猛省。あのとき、右側の崖はそれほど深くなく、道は多分建屋の 2 階か 3 階程度の高さにあり、下は木が茂っていたので転落しても助かるだろうと思い進んだことを記憶している。しかしながら、この齢になり、猪突猛進は何んとしても改めねばならない。